

大日本紡績聯合會編

執筆 嘉治眞三 田中義英 多谷泰三
龜井豐二 宇佐美誠次郎 信夫清三郎
森谷克巳 名和統一 守屋典郎

東亞共榮圈と纖維産業

文理書院版

不許轉載及複製

出文協承認

あ 10169 號

昭和十六年二月廿五日 初版印刷
昭和十六年三月一日 初版發行
昭和十七年六月十五日 第二版印刷
昭和十七年六月廿一日 第二版發行
(1000部)



發行所

配給元

著者

發行者

印刷者

東亞共榮圈と纖維産業 奥付

⑤ 定價四圓二拾錢

日本紡績聯合會

代表者 白石幸三郎

大阪府北河内郡守口町松町四二番地

山添陽三

大阪市南區順慶町一丁目三七番地

大谷末吉

印文會刊號 四六一二二

大阪市北區堂島上一丁目一六番地

文協會員證號
一八〇二六號

文
理
書
院

電話北 〇一 一二七番
振替 大阪 四五七七〇番

東京市神田區淡路町二丁目一六番地

日本出版配給株式會社

序

五十年の歴史を有する紡績聯合會は、その創立以來常にわが産業の發展の先頭に立ち、その指導的役割をはたしたことは人の知る如くである。今、高度國防國家の建設と、東亞共榮圈の確立とが、わが國策として高く掲げられてゐる時、此の歴史を有つ紡績聯合會の使命も、何等變らないのみならず一入重大なるものをおぼへるのである。

然し乍ら東亞共榮圈の確立の問題は、誠に複雑、深遠であつて、云ふが如く容易なることではないのである。東亞は廣大であり、無限の資源を有つており、此處に經濟的開發と人の和とを得る時は、眞に世界無比の樂土を建設し得るであらう。だが、此の共榮圈内に包含されてゐる諸領域は、從來悉く列強の植民地乃至は半植民地として、正常な國民的發達を阻止され、その經濟の狀態も幼稚な段階に留つてゐるか乃至は停滯してゐるのである。そして日露戰爭に於ける日本の勝利は、是等諸國の民衆に無限の希望を與へ、殊に第一次歐洲大戰以後、彼等の民族的自覺と奮起とを呼び起してゐるのであるが、尙、此等諸國の民衆の發達程度は低く、又歐米帝國主義の使喚の下に躍らされてゐるものも、跡を絶たぬのである。

植民地的經濟段階にある東亞共榮圈諸國の開發にあたつて、圈内に於ける纖維産業の將來は特

に慎重な配慮を必要とする。蓋し、わが國は世界一流の大纖維工業國であるのに、共榮圈内の諸國、例へば支那、印度等は、有數の原料國であり、又廣大な市場を形成すると共に、既にかなりの工業的發展の域にも到達してゐるからである。此處に、わが指導の下に、東亞に於ける纖維工業の需給調整と分野設定との問題が取上げられると共に、世界貿易戰における我れの優越性が主張せられるのである。之がためには、各領域の各特殊事情が、正確に、最も科學的且つ綜合的に研究把握せられると共に、夫々の特殊性に對應した政策の樹立が、極めて肝要となるのである。

東亞共榮圈の確立に極めて大きな役割を背負つてゐる纖維産業に關して、從來此の種の研究調査が充分であつたかと云ふに、遺憾ながら今のところ未だ充分であつたとは斷じ兼ねざるを得ない。一昨年十二月、日滿支三國綿業の提携、調整を目的として東亞綿業協議會が設立せられ、三國綿業に關する諸事項の調査はその重要な事業とせられたのであるが、舊臘開催せられた第二回協議會に於いても、之が活動の基礎として、東亞共榮圈内纖維産業全般にわたる科學的調査の必要を、今更ながら痛感させられたのである。此處に、紡績聯合會の事業として、短日月の間ではあつたが、東亞各地の纖維産業を中心に、夫々の部門別に、各專門的研究家に執筆を依頼したのである。

今、執筆者諸君の熱心な賛同の下に得られた此等の論稿を通觀するに、將來の見透しに就いて幾多の貴重なる示唆を與へられるのである。その示唆は、單に、纖維産業の將來の計畫にとつて

貴重なるのみならず、此の産業を通して種々なる問題の鮮明に寄與するところも亦少くないのである。種々の事情から我々の豫期した總ての論稿を集めることは得なかつたが執筆者の中には病床にあつて特に筆を進めて頂いた人もあり、又重病その他の原因で不幸にして執筆出来なかつた人からも、熱心なる種々の御配慮を受け、全體に亘つて短時日ではあつたが、非常な努力の下に得られた、優れた好著として、此處に世に問ひ得ることは祕かに自ら誇りとしてゐる所である。

皇紀二千六百一年二月

大日本紡績聯合會專務理事

白 石 幸 三 郎

例言

一、本書は、東亞綿業協議會第二回定時協議會の開催を機とし、紡績聯合會に於て編纂したものである。此のため紡績聯合會に於て、日本内地を除く東亞共榮圈のうち、差當り重要な各領域各部門について問題を選定し、之に基いて、全國的に夫々選定したる各専門的研究家に執筆を依頼して編纂したのである。

一、本書はもとより東亞共榮圈の纖維産業の總てを盡したものではない。日本の諸問題はおくとしても、東亞共榮圈内の纖維問題は、その領域の大と、その原料、製品の複雑の故に、極めて多岐である。その間にあつて、本書は先づ此處に輯録した諸問題を現在に於て重要と認め、第一次的着手として之が編纂に當つたものである。讀者は、本書がとくに支那の綿業について努力を拂ふと共に、此の分野においては、著しき開拓をなしてゐることを直ちに認められるであらう。確かに此の問題の研究者とつて、本書が必讀の内容及び資料よりなれることを自負するのである。それと共に、本書は又蘭印問題の重要性漸く高まらんとしつゝある際、此の領域の本邦に於ける研究に一大寄與をしてゐることを自ら認めるのである。本書は實に、蘭印の諸問題のわが國における學的檢討尙不充分な時、此の問題に關する數少なき勞作の中にも亦屬するものである。

一、本書の論稿のうち、多谷泰三君の「事變後の支那における紡績業」は嘗て大日本紡績聯合會月報五七一號、五七二號、五七四號、五七五號、五七七號にわたつて連載したものであるが、興亞院等より獨立して出版すべきことを從憑せられ、此處に本書中の一編として採用したのである。その他の論稿中、前記月報にその一部を掲載したものであるが、全體に涉り、新たに書下ろしたものであつて、執筆者各位の努力は讀者の自ら感ぜられ

る所と信ずる。

一、當初計畫したる論稿中には、此處に發表したるものの他、「中支の製糸業」、「印度の綿業と今後の動向」等の各編があつたが、依頼した執筆者の上海より内地への出張、重病等のため、遂に斷念せざるを得なかつた。然し此等の論稿は、東亞における情勢の進展と共に新たな他の論稿と併せて、將來發表せんことを期してゐるのである。

一、最後に本書作成に當り、執筆者諸氏其他種々御援助を受けた各位に對し此處に厚く感謝の意を表する。

大日本紡績聯合會企畫部

目次

東亞共榮圈と纖維資源

嘉 治 眞 三
龜 井 豊 二

一 我國經濟の構造、機構と東亞共榮圈

- 1 我國經濟の從來の構造、機構……………一
- 2 支那事變以來の變化の進行——日獨伊軍事同盟締結によるその促進……………三
- 3 東亞共榮圈内におけるアウタルキーの可能性……………八

二 東亞共榮圈の纖維資源

- 1 共榮圈内纖維資源の世界經濟に占める意義……………二
- 2 東亞共榮圈の纖維資源の新秩序に對して有する意義——重工業資源との關係……………三
- 3 東亞共榮圈内における産業別纖維資源……………五

A 棉 花……………一五

a	支	那	六
b	朝	鮮	六
c	滿	洲	九
d	南	洋	三
B	羊	毛	三
C	麻		七
D	スフ及び人絹(パルプ)		元
E	生	糸	四

三 東亞共榮圈内における纖維資源開發の展望……………三

1	東亞共榮圈内における纖維原料自給可能性の現状……………三
2	纖維資源開發の展望……………四

鮮滿の紡織工業と纖維資源……………森 谷 克 己

一	朝鮮における紡織工業と纖維資源……………五
1	序……………五

2 近年における紡織工業の躍進的發達…………… 四

3 綿紡織工業と棉資源…………… 四

A 綿絲紡績…………… 四

B 綿織物…………… 五

C 朝鮮の棉…………… 五

4 絹織物、製絲と産繭…………… 五

A 絹織物および製絲…………… 五

B 鮮産繭…………… 五

5 麻布工業とその原料資源…………… 六

A 麻織物…………… 六

B 麻資源…………… 六

6 毛織物工業と羊毛資源…………… 六

A 毛織物…………… 六

B 朝鮮の緬羊…………… 六

7 化學纖維工業とその原料資源…………… 六

A 化學纖維工業…………… 六

四 B パルプ資源..... 六

二 滿洲の紡織工業と纖維資源..... 七

1 紡織工業品の需給概況..... 七

2 綿紡織工業と棉花資源..... 七

支那の棉花

田 中 義 英

一 總 說..... 七

二 支那棉花の生産..... 七

三 支那棉花の貿易..... 七

四 支那棉花の品質..... 七

五 支那棉花増産上の諸問題..... 七

1 灌溉の問題..... 八

2	生産費と競合作物の關係……………	三
3	支那棉花の品質と栽培技術的改良……………	八
4	棉農の性格と食糧の問題……………	九〇
5	棉花取引の合理化……………	九二
6	棉實油工業および棉稈パルプ工業の振興……………	九三
六	結 言……………	九四

支那における紡績業の發達と外國資本

宇佐美誠次郎

一	列強の對支投資と紡績業……………	九五
二	日清戰前における清國の綿絲紡績業……………	九七
三	下關條約とその後……………	一〇六
四	第一次世界大戰迄の狀態……………	一二六

五	大戰後の發展と日商紡の進出	二三
六	民族資本紡績業の慢性的恐慌（一九二二年以降）	二三
七	一九三七	二四
八	結	二五

戦時支那紡績業の動態とその問題

名 和 統 一

一	事變前支那紡績業の概観	一五
二	事變による紡績工場の破壊、損傷および 支那紡績業の政治的細分	一五
三	重慶政府治下の紡績業	一六
1	事變前より非占領地域にある工場	一六
2	後方移轉紡績工場	一六

3	新設計畫進行中の中規模紡績工場……………	一七
4	手工的紡織の復活および再編成……………	一六
四	上海租界の支那人および英人紡績業……………	一三
五	日本人紡績工場特に上海の日本人工場……………	一八〇
六	占領地區軍管理工場……………	一八三
七	支那紡績業特に中支紡績業における當面の諸問題……………	一八四
1	物資搬出入統制強化および通貨問題と在支日本人紡績業……………	一八五
2	軍管理工場返還問題と在支日本人紡績業……………	一八七

事變後の支那における紡績業

——主としてその數字的資料——

多 谷 泰 三

一	全支紡績業の構成的變化……………	一三
---	------------------	----

1	事變前の全支紡績業	一九三
2	現存華人紡の規定	一九四
3	全支紡績業事變前後の比較	一九六
二	全支紡績業の變革概況	一九七

1	華人紡	一九八
---	-----	-----

A	事變前の規模	一九八
B	事變による設備の破壊	一九九
C	外國資本の傘下に移行せる設備	二〇一
D	邦人紡の委任經營下に移行せる設備	二〇一
E	上海租界内設備	二〇六
F	在天津紡績	二一〇
G	其他動向不明の華人紡	二一三
H	再び華人紡設備破壊程度の推測	二一三
I	華人紡に對する一應の見透し	二一四
2	邦人紡	二一五

A 設備の變化……………二二五

a 事變前設備の檢討……………二二五

b 事變に依る破壊設備……………二二九

イ 上海における設備の破壊……………二三〇

ロ 泰安紡の喪失……………二三一

ハ 青島における設備の破壊……………二三一

c 復興……………二三四

d 委任經營工場……………二三六

イ 北支軍管理工場……………二三八

ロ 中支委任經營工場……………二三八

e 天津新設工場の運營……………二四一

f 現在設備の檢討……………二四三

g 事變前後各社設備比較……………二四三

B 操業狀態……………二四五

a 在上海工場……………二四五

b 在青島工場……………二四七

c 在天津工場……………二四〇

d 中支委任經營工場……………二四三

e 北支軍管理工場……………二四三

C 棉花消費.....二五

a 全支那紡績の原棉消費量.....二五

b 邦人紡棉花消費量.....二五

c 一鍾當り棉花消費量.....二五

D 綿絲生産高.....二五

a 全支綿絲生産高.....二五

b 番手別綿絲生産高.....二五

c 邦人紡平均番手.....二五

d 一鍾一日平均出來高.....二五

E 綿布生産高.....二五

三 び す び.....二五

蘭領印度の綿業

信 夫 清 三 郎

一 植民地としての蘭印の經濟構造.....二五

二 蘭印の工業化.....二五